



学校だより 2月号

令和 6年 1月31日

横浜市立新田小学校

～「自分に勝つ」～

副校長 野村 賢司

令和6年が始まり早いもので、一か月が経ちました。卒業証書授与式まで31日、修了式まで35日となりました。これからは、1年間のまとめの時期です。子どもたちが一日一日を自分の力で頑張れるように教職員一同、しっかり指導していきます。

さて、間もなく2月3日、節分を迎えます。節分とは、「立春の前日に鬼を追い払って邪気を払う目的で、1年の健康と幸せを願って行われる伝統行事」のことです。古来より、鬼は災害や病、飢饉など恐ろしい出来事を引き起こすと考えられてきました。そうした鬼が近づかないように豆を投げつけるという習慣が始まりました。豆をなぜ投げるのかというと、「魔物（鬼）の目をめがけて豆を投げれば、魔を滅ぼすことができる。」ということから、「魔目（まめ）＝豆（まめ）」となったと言われています。

魔物（鬼）は、どこに住んでいるのでしょうか。山や湖、川、森などいろいろな場所にいるのでしょうか。本来、一人ひとりの自分自身の内面にすんでいると言われています。

皆さんは、物事に対して「嫌だな」「やりたくない」「逃げたい」と思ったことはないでしょうか。そうした気持ちは、自分の心の中に潜む魔物に心が負けそうになった時に出てくるものと思います。私も幼少期の頃は何度も「魔物」に心が負けそうになったり、逃げ出したりした経験があります。そんな時に、ある著名な方の一説に出会いました。それは、『最も難しい勝利とは何か。それは、「自分に勝つ」こと以外にない。昨日の自分より今日の自分、今日の自分より明日の自分を見よ。そう生きぬく向上の人こそ、偉大なる人生の山を登りきれる人である。天才、秀才といっても努力の結晶である。すべて、「自分」で決まるのである。』とありました。

私自身、学生時代まで陸上部に所属していました。長距離で1万m(10キロ)を走っていました。毎日の練習が厳しくて、また成果が出ないとやめたいなという気持ちが思い浮かぶたびにこの「自分に勝つ」という言葉を思い出していました。その度に、「もう少し練習をしよう。頑張って走ろう！」と気持ちを高めて練習を続けました。結果として大きな成果をあげたわけでもありませんが、きつい練習に耐えられたこと、逃げずに丁寧に陸上をやり続けることができたことに自信をもつことができました。

「自分に勝つ」という言葉に出会ってから、陸上以外の場面でも心に「魔物」が来るたびに「よし頑張るぞ」「自分から」という気持ちで物事に取り組むようになりました。

日常生活の中で、大人も子どもも逃げ出したくなるような「魔物」が心を襲ってくる場面が必ずあると思います。その時に、その「魔物」に負けないで立ち向かうか、時にはくじけてしまうか、最終的には自分の心が左右します。「自分に勝つ」ことで、自分が成長でき、更に自分の夢に近づくことができるのではないかと思います。

今月も子どもたちを温かく見守りながら教育活動に邁進していきます。どうぞよろしくお願ひします。